

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・クリスマスや年末年始等、イベントがめじろ押しである。好調の波を更に拡大させるため、きめ細かい品揃えや積極的なサービスを今以上に進めていく。
		コンビニ（経営者）	・店を駐車場のあるところに移転したので、客数が多くなり、売上が増えている。
		一般レストラン（経営者）	・年末年始を迎え、来客数の増加、会合の増加等で増収になるが、原材料の高騰で増益になるかどうかはわからない。
	やや良くなる	コンビニ（店長）	・年末年始の予約活動が始まっているが、出だしは、あまり芳しくない。今の景気情勢からして、年末年始に向かって客の財布のひもが緩むとはとても思えない。
	変わらない	衣料品専門店（店長）	・円高や株安の影響が、今まで好景気を支えてきた企業にまで波及している。公務員を除いた大部分の企業は冬のボーナスなどに影響が表れるため、年末やクリスマス商戦は厳しい。
		衣料品専門店（統括）	・消費者の買い控えが目に見えてはっきりしている。持っているものは利用し、新しいものは我慢する。必要によっては、格安の品物を求めている人が多いようだ。街中に人が出てくる気配はなかなか感じられない。
		乗用車販売店（営業担当）	・来場者数が激減しており、今後も車の買い控えが深刻となる。
		乗用車販売店（営業担当）	・これまで自動車を現金で購入してきたユーザーが、リースで契約するようになってきている。資金繰りが大変だという感じで、先行きも厳しい。
		旅行代理店（支店長）	・12月は忘年会の季節であるが、忘年会の出足は非常に好調である。特に週末の金曜日は近隣温泉地においてはほぼ宴会場が取れないというような状況になっている。一方、年末年始の客については海外旅行を中心にまだまだ販売の力が弱いということで、総じて変わらない。
		遊園地（職員）	・原油価格の値下がりや有料道路料金の一部値下げなど当社にとって追い風となる要素はあるものの、依然として消費は冷え込んでおり、厳しい状況が続く。
		ゴルフ場（従業員）	・予約数は前年と同じである。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・来客数の中で、少しでも安い値段で商品を探めようとしている姿が多い。金融不安により一層買い控えが増加しそうである。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・客の購買意欲が出てこない限り、売上も期待できず、厳しい年末商戦になる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・サブプライムローン問題を発端に全世界で株安、日本でも輸出企業の悪化などの影響が間違いなく出てくるので、小売業へも客の財布のひもが固くなり、悪影響を及ぼしてくる。
		百貨店（営業担当）	・紳士服においては、非常に厳しい状態が続く。
		百貨店（販売促進担当）	・依然消費の低迷は続き、百貨店の売上不振が続く。高額品を販売する時期を迎えるにあたり、客の財布のひもが非常に固く、かなりの低迷が見込まれる。
		百貨店（販売促進担当）	・衣料品の不調が回復する要因は、現時点では見当たらない。必要な物以外の支出はしないという傾向は、今後一層強まる。
		スーパー（販売促進担当）	・今まで堅調であった食品がこのところ売行きが鈍ってきており、回復のめどが立たない。食品関連の事件も頻発しており、その影響がある。株価下落などの不況と食品の安全問題が重なり、購入意欲が低下しているように感じられる。
		スーパー（統括）	・世界的な不景気の影響は年末年始を控えて、今一番の不安材料となっている。
スーパー（統括）		・株価の暴落や急激な円高で、地元の輸出ウエイトの大きい上場企業の工場閉鎖や人員削減が具体的な話となってきており、企業業績の悪化から冬季賞与も減少する見通しであり、財布のひもはさらに固くなる。	
衣料品専門店（販売担当）		・現状が底を打っている状況ではなく、これからますます財布のひもが固くなる一方である。長期の暖冬予想が出ており、通常は寒くなるにつれ自然と商品の流れは薄手から厚手に動くのだが、暖冬となるとなかなか読めない。	
乗用車販売店（販売担当）		・展示会をやっても、店で客を待っていても、月を追うごとに悪くなっている。これからも良くなる見込みはない様子である。ガソリンが下がっても他の物価が上がっており、景気が良くなることはない。	

自動車備品販売店（経営者）	・客の車の利用頻度、利用台数が減り、落ち込んでいる。あまり将来的に明るい見通しはない。
住関連専門店（経営企画責任者）	・金融不安を中心とした社会不安による消費の低迷が予測される。
高級レストラン（店長）	・例年、年末年始の宴会予約が入り始める時期だが、今年はまだ1件も予約がなく、問い合わせも少ない。客の話では、建設業、電子部品関連で年を越せない中小企業がある。
一般レストラン（経営者）	・ランチの客は徐々に増えているが、ディナーの客が極端に減っている。客単価がなかなか上がらず、来客数も伸びていない。
旅行代理店（従業員）	・急な円高等による経済状況の不安定によって、なかなか動きにくくなる。
ゴルフ場（従業員）	・今後の予約関係のみでも、前年と比べてあまり良い状況ではなく、下降気味である。来客数についても若干下向きの予想である。
ゴルフ場（業務担当）	・今月は前年を大きく上回る来場者を見込めた。単価は前年より15%くらい下がっているが、入場者は多かったので売上は相対的に出ているが、他との価格競争が激化している。先行きはあまり変わらない。
ゴルフ場（支配人）	・地場産業、建設業の中小企業オーナーが会員に多く、景気に対する質問や業界の動き、倒産のうわさなど、ゴルフ場における会話の内容が変わってきている。平日来場者は年金受給者である年配者がますます多くなっている。今後も厳しい状況は続く。
その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・景気が落ち込んでいるが、当社のようなアミューズメント業界に関しては直接的影響はまだ出ていない、まだ目立っていないという感じである。これから収入が伸びない、また消費より貯蓄に回される可能性が強いということで、我々の業界への影響も目立ってくる。
住宅販売会社（従業員）	・来場者の減少は、そのまま2～3か月後の受注減少につながる。
悪くなる	
商店街（代表者）	・新規郊外大型店の影響が尾を引く。空き店舗が増えてきており、先行きが心配である。
商店街（代表者）	・地元企業の業績悪化情報、店舗閉鎖、リストラ等のニュースが連日流れ、年末の贈答品商戦がむなしく感じる。
一般小売店[酒類] (経営者)	・消費者の生活防衛のため、高級品が売れない状態が続く。
一般小売店[乳業] (経営者)	・前年比売上高が落ち始めている。値上げ後の下落で、今後同様の推移が予想される。
百貨店（総務担当）	・株価の下落により中高年の客が消費に回せるお金がますますなくなり、売上が下落する。特に、衣料品関係はこれらより悪化する。食料品はますます超目玉商品志向になって、店の利益がほとんど確保できなくなる。
スーパー（経営者）	・経済の失速により悪化していく。
スーパー（総務担当）	・客の生活防衛意識が非常に高い。無駄な物、不要な物はほとんど買わない。食品についても、本当に必要な物だけとなっている。株価は元に戻るまでは時間が掛かると思われるので、先行きについても非常に良くない。
衣料品専門店（経営者）	・年配客の買い控えが響いている。
衣料品専門店（店長）	・原価、物価の高騰がまだ続く。
家電量販店（店長）	・円高が家電製品の需要にどのように影響するのか。輸入製品については価格の面で若干追い風になるかもしれない。大手メーカーの輸出がどのように影響するかで小売の消費に影響する。
一般レストラン（経営者）	・食の安心、安全、また景気に対する不安により、多少のガソリンの値下げぐらいで客足が回復するとは考えられない。
スナック（経営者）	・先行き全くの不透明感が漂っている。
観光型ホテル（スタッフ）	・株安、円高傾向が顕著になってきているため、悪くなる。
都市型ホテル（経営者）	・自動車、電機関係が市内の産業のため、下請や孫請等に影響し、研修や出張の減少により宿泊、飲食は今後も減少し続ける。
都市型ホテル（支配人）	・前年に比べて1～2か月先の予約が全体的に少なくなっている。
都市型ホテル（スタッフ）	・ガソリン等は非常に安くなったが、世界的な不況と騒がれているので、財布のひもはどんどん固くなっていき、お金を持っている人も全然使わなくなっていくような様子である。

		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊予約は前年並みで数字的には変わらない状況にあるが、会議、宴会、忘年会などは大幅に減少している。
		旅行代理店（副支店長）	・このところ急激に得意先の仕事量が激減している様子で、旅行の話は影をひそめている。年末年始の旅行についても先行き不安である。
		タクシー（経営者）	・客の節約が始まると、タクシー代が節約の対象になるので、この先は不安である。
		観光名所（職員）	・景気悪化に伴い、企業のオーナー等、別荘を持つ富裕層の購買意欲が減退している。また、株式や土地など所有資産の目減りが大きく、向こう3～5年は別荘業界の苦境は続くものと予想される。
		美容室（経営者）	・景気は冷え切ってしまったようで、来客数も単価も下がっているのが現状である。以前なら売上が良い月、悪い月と推測できたが、今は悪い状態で落ち着いてしまっている。今年は年末のイベントを中止とし、悪い状況が続く。
		設計事務所（経営者）	・銀行の融資の審査が厳しく、顧客の設備投資が低調となっている。構造事務所が依然、学校、官公庁の耐震調査診断業務でパンク状態であり、外注が難しい状況が続く。
		住宅販売会社（経営者）	・金融の対応がどうなるかもあるが、不動産業界としては同業の倒産件数が特に増えているので影響を受ける可能性がある。良くなる要因が見付からない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（製造担当）	・今の状態で物流が推移していけば良くなる。中国不信がどのような影響を今後与えていくかは計り知れないが、国産品はやはり高いと消費者も手が出ないので、とにかく安心安全な商品作りを徹底し、適正価格で販売すれば必ず客は付いてくる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・契約件数や問い合わせは徐々に増えつつある。
	変わらない	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・エアゾール缶処理機はいずれどこも必要なので時間は掛かるが、会社全体の安定性から見たら変わらない。
		輸送業（営業担当）	・主力荷主から前年より大幅な輸送量の依頼を受けている。他社の車両の協力が重要になってくる状況だが、他社のフリーの車両が減っており、備車を確保できるか心配な状況である。
		司法書士	・景気が良くなると出てくる登記が減って、景気が悪いときに出てくる債務整理が増えているので、今と変わらない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・最低ライン近くまで落ち込んできているが、もうしばらくの間は先が読めない状況で、消費者心理にまだ悪影響が残っている。
		食料品製造業（営業統括）	・急激な円高により、ユーロ、ドルの下落が著しく、輸入ワイン、特にフランスワインが安価に販売され始め、これからますます国産ワインは窮地に追い込まれる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・仕事量が低下する一方で、原材料が高騰しているため、利益が出ないまま推移する。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・今後は受注がまた更に減る予定である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末商品の受注見込みはあるものの、数年来の加工賃据え置きと同時に、原材料、高熱諸費用の値上がりにつき、減益になる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・当社は9、10月と仕事量が重なり忙しい月だったが、内容が厳しく生産高が上がらないのが実情であった。11月からの受注量も低迷し、円高、株安の影響も非常に心配である。
		建設業（経営者）	・県発注の公共事業のピークが過ぎてしまう。
		金融業（経営企画担当）	・このところ営業区域内での倒産等大きな動きはなかったが、10月下旬に比較的大きな倒産が発生した。景気の先行き不透明感の増大など心理的にも懸念材料が多くなってきており、特に中小零細企業には具体的な影響が今後出てくるものと予想される。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・新聞、ミニコミ誌の広告出稿が9月ごろから一段と厳しくなり、1万円の広告も考えてしまう広告主が多くなってきている。また大型スーパー、量販店の閉店計画が発表され閉そく感はぬぐえない。
	悪くなる	化学工業（経営者）	・年内は少ないながらも生産、出荷があるが、その先は全く不明である。1月の出荷はゼロになるのではないかと危惧している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・12月分より建設機械部品が30%、自動車部品は20%の受注減という情報が入ってきている。

	一般機械器具製造業 (経営者)	・夏以降、短期間の間にすべての業種で急速に受注が落ち込んできており、年内は更に落ち込むことはあっても回復に向かうような状況は全く見られない。人員調整等が避けられない状況になりつつある。	
	電気機械器具製造業 (経営者)	・すべての分野で減産、キャンセルが相次ぎ、先が全く見通せない。	
	電気機械器具製造業 (経営者)	・通信のボタン電話システムは世の中の景況、景気に影響される部分が多く、当分ボタン電話システムの売行きは芳しくないのではないかとと思われる。	
	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・メーカー側の減産体制が本格化していきいている。11月が25%ほどの減産、12月が17~18%ほどの減産である。そういった状況の中で、銀行借入もますます厳しくなっており、値上げについては認めてもらえず、自助努力を求められており、収益状況は非常に厳しくなる。	
	その他製造業〔宝石・貴金属〕(経営者)	・倒産する会社も出てくると思われる。消費者の買い控えで宝飾離れが進みそうである。	
	金融業(調査担当)	・製造業の受注減少、雇用環境の減速、消費者の節約志向の高まりが鮮明になっており、先行きは悪い。	
	広告代理店(営業担当)	・年末に向けた商品販売に対する期待感が多くのサービス業で低い。とりあえず販促にお金を掛けずにしのぐ動きが多く、先行きの不安だけが膨らむばかりである。	
	経営コンサルタント	・中小、中堅企業は、もはや、自力で活気を取り戻す機会と能力を逸しているかと思われる。戦略的な景気浮揚策と、資金繰り面で新たなセーフティーネットの方針による金融サポートなどがなければ、経営が行き詰まる企業が今後も加速度的に増え続ける恐れがある。	
雇用 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	-	
	変わらない	求人情報誌製作会社 (経営者)	・求人広告の掲載件数が減少していく。
	やや悪くなる	人材派遣会社(経営者)	・建築関係と電話関係の仕事が減って、売上が下がっていく。
		職業安定所(職員)	・新規求人数はほとんどの産業で前年比減少となっている。最近の経済情勢に伴い、採用はしばらく見合わせたいとする企業が多く見受けられる状況である。今後、雇用情勢は厳しさを増すものと思われ、景気に与える影響も少なからずあると思われる。
		学校〔短期大学〕(就職担当)	・この時期に開催された企業ガイダンスでの採用情報を見ても、技術職や営業職等、必要不可欠な職種の求人は若干あるが、学生が希望する事務職や製造職はほとんど出てこない。製造業を中心として採用予定を下方修正したり、大手企業も収益見込みを下方修正し始め、さらなる採用への影響が懸念される。
		学校〔専門学校〕(副校長)	・東京を中心とした首都圏からの求人減少もあるが、県内においても、特に中小の製造業からの求人件数が減ってきている。
	悪くなる	求人情報誌製作会社 (経営者)	・周辺企業を見ると、どの業種ということなく、今後さらに求人募集が少なくなる。
		職業安定所(職員)	・新規求人が減少傾向にある上、いくつか人員整理の情報もあり、求職者が増加していくものと予想される。
職業安定所(職員)		・企業収益の悪化が見られると、失業者の増加につながり、雇用情勢が悪くなる懸念がある。	